



マネジメント学部 地域マネジメント学科

第1回 ゼミ合同座談会 一期生が語る地域マネジメント学科のリアルな魅力

IBARAGI seminar

菅野 元稀 KANNO Genki

KIMURA seminar

山口 聖司 YAMAGUCHI Seiji

TORIKAI seminar

渡邊 春輝 WATANABE Haruki

司会 ▶▶ 教授 木村 陽子



福島学院大学
Fukushima Gakuin University

司会：今日は、お集まりいただきありがとうございます。

皆さんは地域マネジメント学科の1期生として、まだ卒業生もいない学科に飛び込んでくださいました。高校生のようにあどけなかった皆さんもついに4年生となり、就職先も内定し、それぞれの進路を切り拓かれました。これからの活躍が楽しみです。

今回は「一期生が語る地域マネジメント学科のリアルな魅力」というタイトルのもと、自由にお話していただきたいと思います。私は非常勤講師を含めると10以上の大学で教えてきましたが、この頃、福島学院大学の一番の魅力は、学生の皆さんだと思うのです。皆さんはそう思っていないかもしれないけれど、私はそう思います。

でもそれでは抽象論になってしまうので、具体的に福島学院大学の魅力として、次の4つのトピックをあげて、順にお話いただければと思います。1番目は「少人数教育」、2番目は「先生との距離の近さ」、3番目は「授業以外の学びの大切さ」、4番目は、「地域マネジメント学科で学んだことをこれからどう活かすか」です。

まず、1番目のトピック「少人数教育」についてお話し伺いましょう。

少人数教育 ▶ 教員との距離の近さ



司会：それでは、出席番号順に……元稀さんからお願いします（笑）。

元稀：はい（笑）。

本学の授業を受けて感じたのは少人数教育の良さです。

自分が分からなかった時にすぐに先生に質問に行ける、それはすごく大きかったと思っています。教室も他の大学に比べれば狭いかもしれませんが、その分、何かあればすぐに先生を呼んで「ここはどうなのですか？」と聞けたり。

司会：先生を呼ぶ？（笑）

元稀：呼んだ時もあります。

授業が終わった後に聞きに行ってお話したりとか。大人数だと先生1人に対して、学生が何十人も聞きに行ったりして大変ですけど、少人数だからこそ、先生との距離が近くて、質問しやすい。

司会：先生にとっても、この大学の「学生との距離の近さ」は魅力です。

特に、ゼミでは、各ゼミ生の個性にあった教育ができて最高です。それでは、聖司さん。

聖司：少人数教育については、田川先生の授業で、確か10人くらいしか受けていなかったのですが、課題提出も多くて、1人ひとりに決め細やかなフィードバックをいただけました。そういうのは少人数教育ならではの魅力だなと実感しました。

司会：「休めない」というのはありませんか？ 少人数だと（笑）。

聖司：ああ、確かに（笑）。

田川先生の授業は休んだりともありましたけど（笑）。

でも、ゼミはゼミ生が僕1人なので正直ズル休みできないなっていうのはあります。「ちょっと休みたいな」という時もぶっちゃけありますけど（笑）。

司会：正直ですね（笑）。

聖司：真面目に出席するという点に関しては、少人数教育だと、強制力が働いて休まずに行けるというのはあります。たまに休みたいと思う時もありますが、頑張ってます。



司会：地域マネジメント学科の先生達の会議でも「最近、〇〇さんが授業を欠席しているけれど大丈夫かしら」と、学生の出欠状況を共有しています。1 年生から基礎ゼミがありますから、心配な場合はゼミの先生にも連絡します。はい、お待たせしました。春輝さん。



春輝：今2人が言った「先生との距離が近い」というのもそうですが、僕は学生同士の距離も近かったかなと感じています。授業形式もグループワークで進めることが多かったので、周りの人と意見交換をして進めていく中で、学生同士の距離が近づき、分からないところも聞きやすかったです。

司会：私はアクティブラーニングを他の大学ではあまりしてこなくて、この大学ではじめて本格的に授業に取り入れました。学生さんの発表の仕方が学期のはじめと終わりで違い、確かな成長を感じます。「嫌です、嫌です」って、初めは発表を逃げていた人でさえ(笑)。積み重ねるということは、えらいものやね。教員にとって、皆さんの成長を見るのは楽しみであり、励みでもあるのだけど、そういう意味で皆さんは、本当によく期待に応えてくれたと思います。

司会：「少人数教育」と「先生との距離の近さ」と関連して、お友達との距離はどうでした？

元稀：少人数なので友達はできやすいですね。

春輝：友達との距離はかなり近かったですね。

司会：他の先生とか事務職員さんとの距離はどうですか？ 名前を覚えていらっしゃいますか？

元稀：覚えていらっしゃいますね。特に、先生とか。

春輝：覚えていらっしゃいますね。教務課とかキャリア支援課の方々は、僕の名前と顔を覚えておられると感じます。

元稀：僕も教務課には最近、名前を覚えられたという実感があります(笑)。

聖司：そうですね。学生課とかキャリア支援課の方とか。

司会：事務の方が学生の名前と顔を覚えておられるのは大学では珍しいし、とても良いことですね。

授業以外の学びの大切さ

司会：では 3 番目のトピック「授業以外の学びの大切さ」に移りましょう。

授業以外の学びには、地域連携活動、クラブ活動、アルバイト等、いろいろなものがありますね。

元稀さんは、学友会やクラスを引っ張ってくれましたね。

元稀：そうですね。自分はクラス委員とか、結構多くやっています。

キャリア支援課の方たちに呼ばれて、「クラスに配ってください」とか言われたり。大学祭が近くなったら、大学祭実行委員の人と一緒に内容を考えたり。年末のお疲れ様会も以前はやっていたので、そういうイベントの段取りとか。自分なりにスケジュールを立てて実行するというのを、学びとしてできていたと思います。あと個人的には、「地域連携活動」が一番ためになったと思っています。数えきれないくらいやってきました。そこで学んだのは、プレゼンをまとめる力、伝える力、あとは「大人の方たちとのコミュニケーション能力」ですね。





司会：そういう場合は訓練になりますね。
私の学生時代の経験からも、そう思います。

元稀：場数を踏むのは本当に大事なと。
就職試験の面接の時とか、何も怖いものはなかったです。

司会：面接官も「まいりました」という感じだったかもしれませんね（笑）。
元稀さんのクラスをまとめあげていく力もすばらしいですね。
人をまとめあげていく時って、忍耐力が培われるでしょ。

元稀：そうです。そうです。

司会：それでは春輝さん、クラブ活動や地域連携など、どうですか。

春輝：僕はバスケットボールクラブにずっと入っていて、一時期クラブ長もやっていました。一期生という視点でいくと、先輩がいなかったんで、自分たちで一からつくらなければいけなかった。
クラブは学科や学年の壁を越えて交流できるし、違う学年の人とも仲良くなれるのが魅力でした。
先輩と仲良くなって授業や就職の話を聞く…ということができればもっと楽しかったかなとも思いますけど、一期生として自分たちが一番上で活動してきたので、後輩を引っ張る自覚などを感じながら活動できて、楽しかったです。

司会：一期生って先輩がいないこともあり、自分達でどうにかしなきゃいけないから、たくましいですね。
クラブ長の経験などは就職の時も役立ちましたか？

春輝：はい、面接でもこういう活動について結構聞かれました。

司会：聖司さんもクラブ長をされていたとか。表彰もされたと聞きましたが。

聖司：いや、表彰は……あれは全員に渡される表彰状（笑）

司会：ああそうなんや。いや、そんなことはないでしょう。

聖司：ローターアクトっていうボランティアクラブで1年間クラブ長をしていました。で、まあ正直、うーん、辛かったです。

司会：何が辛かったですか？

聖司：活動内容も楽しいことばかりじゃなかった。そこから忍耐力が身についたかな。あとは前代の部長からの引き継ぎが特になくて、クラブ長として、自分で主体的に動いてやり方を身につけていったので、主体性も養われたかなと思います。

司会：それは就活でも役に立ちましたか？

聖司：一応公務員志望で勉強はしていたのですが、長時間勉強するわけです。やっぱり忍耐力は必要だと思うのですが。クラブ長の経験で得た忍耐力みたいなものは、そこに活用できたかなっていう感じはなんとなくありますね。

元稀：聖司は、ほんとに辛かったんだね（笑）

司会：でも辛い経験って、後ですごく生きるからね。



地域マネジメント学科で学んだことをこれからどう活かすか

司会：では最後のトピックです。「地域マネジメント学科で学んだことをこれからどう活かすか」。

たとえば、今はあまり実感がないと思うけど、地域マネジメント学科で様々な学問分野を学際的に学んだことは、後で必ず役立ちます。物事を相対的に見ることができるようになります。

元稀さんは、いかがですか？

元稀：僕は将来、車の営業の方に進もうと思っているので、ここでのプレゼンの経験や大人の方と接してきた力は、お客様と対応する時に絶対に大事になると思っています。提案内容の組み立て方も、プレゼンをやってきたことで活かせるかなと。あとは仕事の傍ら、福島に残って「まちづくり」系にも関わられたらいいなと思っています。茨木先生のゼミでデータ分析なども学んだので、統計的な力も使いながら福島の街を少しでも変えていけるような活動をしていきたいです。

司会：元稀さんは人のためになることを考えられるから、営業はとて面白いじゃないですか。

元稀：そうです。人と話すことが好き、人に尽くすことが好きです。

司会：もって生まれた性分でしょうね。じゃあ、聖司さん。

聖司：アルバイトやクラブ活動、大学祭の出店を通して、自分一人では絶対にできなかったなということを実感しました。将来は人とのコミュニケーションを大事に、いろんな人と連携して動いていくところに活かしたいです。頑張ります。

司会：元稀さんも聖司さんも春輝さんも内定をいただいている就職先はあるのですが、今はまだ明確にお話しすることができません。就職先については、産業分野別とか、あるいは、将来に向けてということでお話してください。それでは、春輝さん。



春輝：今、聖司君が言ったみたいに、クラブ活動やアルバイトの人間関係から得られるものは多い。やはり食わず嫌いせずに、その気になったら飛び込んでみることを、大学ですごく学んだと思います。就職の話はしていいですか？

司会：いいですよ。

春輝：就職先が金融系（銀行）になったので、地域連携活動の授業で福島や地元のことがどう動いているかを必修として学んだので、それを活かしたいです。あと、ゼミの鳥飼先生に資格勉強をすごく手伝っていただいて。会計とかが詳しくというちょっとボヤッとした理由でゼミを選んだのですけど。

聖司：高先生のプレゼンの授業は、かなりプレッシャーがあったので忍耐力がつけました。

1、2を争うくらいキツかった（笑）。内容が曖昧だとやり直して。

司会：どんな感じなの？

聖司：プレゼンの内容がちょっと曖昧だったりすると、もう1回やり直して、またもう1回次の日にやり直し。

春輝：僕もドキドキでした。自分が不甲斐ない部分もあったのですが、久しぶりに先生に謝りに行く感覚というか。でも結果的にフィードバックもいただけて、発表の仕方を勉強できたので、本当に良かったです。

司会：じゃあ、感謝の言葉をもって（笑）、この座談会を終わりたいと思います。皆さん、本当にありがとうございました。

学生3人：ありがとうございました。

